

三八地域の環境と地域性を体現する風格を備えた合同庁舎を実現します

事業特性・課題を踏まえ事業目的を達成する
【3つの取組方針】

1 ハード・ソフト両面で高い施設性能を維持し続ける
高い防災性を持った庁舎

2 部署特性に配慮した親しみやすく働きやすい
機能的で柔軟性ある庁舎

3 地域特性に配慮した
環境性能と経済性を併せ持った庁舎



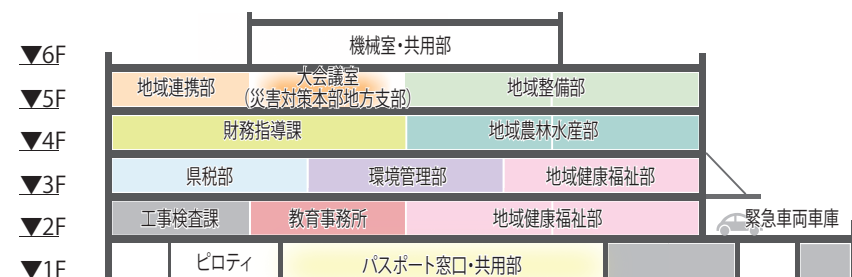
整備概要

階数：地上6階(5階+R階)
延床面積：約9,800㎡
最高高さ：約25m
構造：RCS造一部S造

○新庁舎
建設工事：2025年10月～
供用開始：2027年6月～
○現庁舎解体
解体工事：2027年6月～

施設構成

- 八戸合同庁舎
○三八地域県民局
・地域整備部
・地域農林水産部
・地域連携部
・環境管理部
・地域健康福祉部
・県税部
・教育事務所
・財務指導課
・工事検査課
・パスポート窓口
・共用部
・駐車場



① 高い防災性を持った庁舎

■制振構造+RCS造で地震と水害に対して高い防災性能を発揮

北西側鳥瞰イメージ

鉄骨柱、鉄骨梁(大梁)、外周部梁:RC大梁、外周部柱:RC柱、鉄骨梁(小梁)、鉄骨梁(大梁)

構造計画
・構造形式は柱がRC造、梁がS造のRCS造とし、外周部の梁・外壁をRC造とすることで、浸水時には防潮堤としての機能も担います。
・加えて、地震時の揺れを抑え構造体の損傷を低減できる制振構造とし、高い耐震性能を確保します。

■津波災害や馬淵川の氾濫被害に対応する段階的な浸水対策

北東側鳥瞰イメージ

安全な2階レベルに避難
車路スロープを活用

緊急車両車庫イメージ

▽RF 電気・発電機
▽5F 非常用物品
▽4F 災害対策本部
▽3F 災害常備品
▽2F
▽1F 緊急車両車庫

重要機能は上層階に計画

▲最大想定浸水深

▽2FL +4.2m
▽最大想定浸水深
▽浸水深 +1.5m
▽1FL ±0m
△接道レベル -0.6m

緊急車両車庫
現場作業員倉庫
東側ピロティ

①線状降水帯やゲリラ豪雨対策
・1階床高さは、接道レベルから0.6m高いFLとし、ゲリラ豪雨等による雨水の侵入を防ぎます。

②津波・馬淵川の氾濫による浸水対策
・浸水深1.5mまでは、建物外周部にRC造の腰壁を設置します。
・緊急車両車庫の浸水対策として、庁舎東側2階レベルに車庫(9台分)を設けます。1階レベルから4.2mの高さが確保でき、浸水被害から確実に守ります。
・浸水時に逃げ遅れた住民も、車路スロープで安全な2階レベルに避難が可能です。

③重要機能は浸水リスクの無い高層階に配置
・最大想定浸水深に対しても、災害時の指揮系統をつかさどる災害対策本部地方支部や防災センター等重要機能を上層階に設け庁舎機能を確実に維持します。

2 機能的で柔軟性ある庁舎

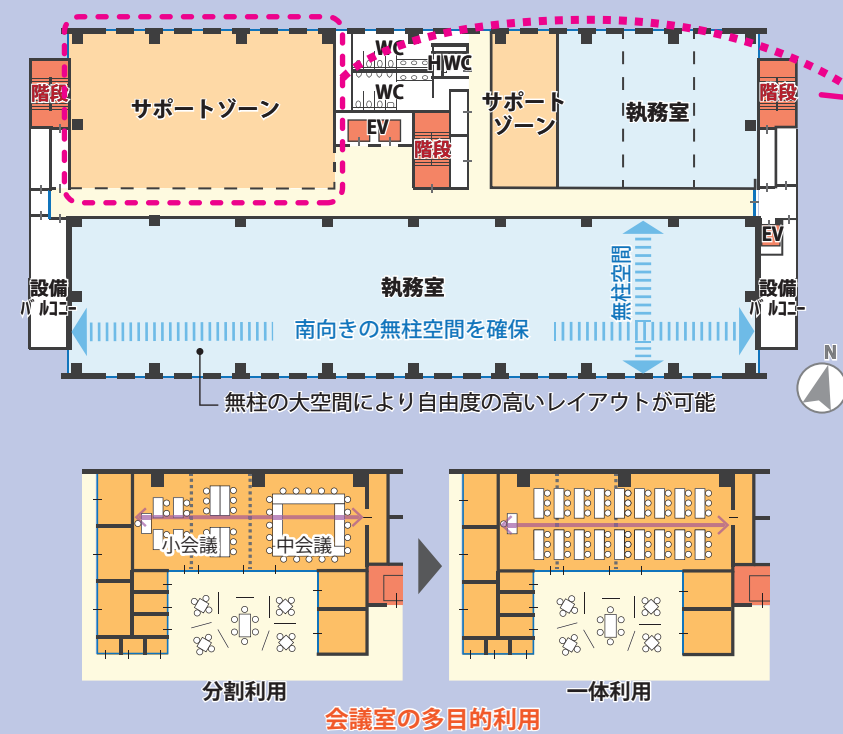
■北側正面により、県道からのスムーズなアプローチを実現



県道に正対し視認性が高いアプローチ計画

- ・新庁舎は、北側県道からエントランスの視認性を高める正面配置とし、徒歩・車など全ての来庁者のスムーズなアプローチが可能です。
- ・車両出入口は、交差点から距離が確保できる、現在の県道西側出口を活用し、見通しが良く死角が少ない、安全なアクセスを可能にします。

■フレキシビリティを高め、新たな働き方に対応した執務環境

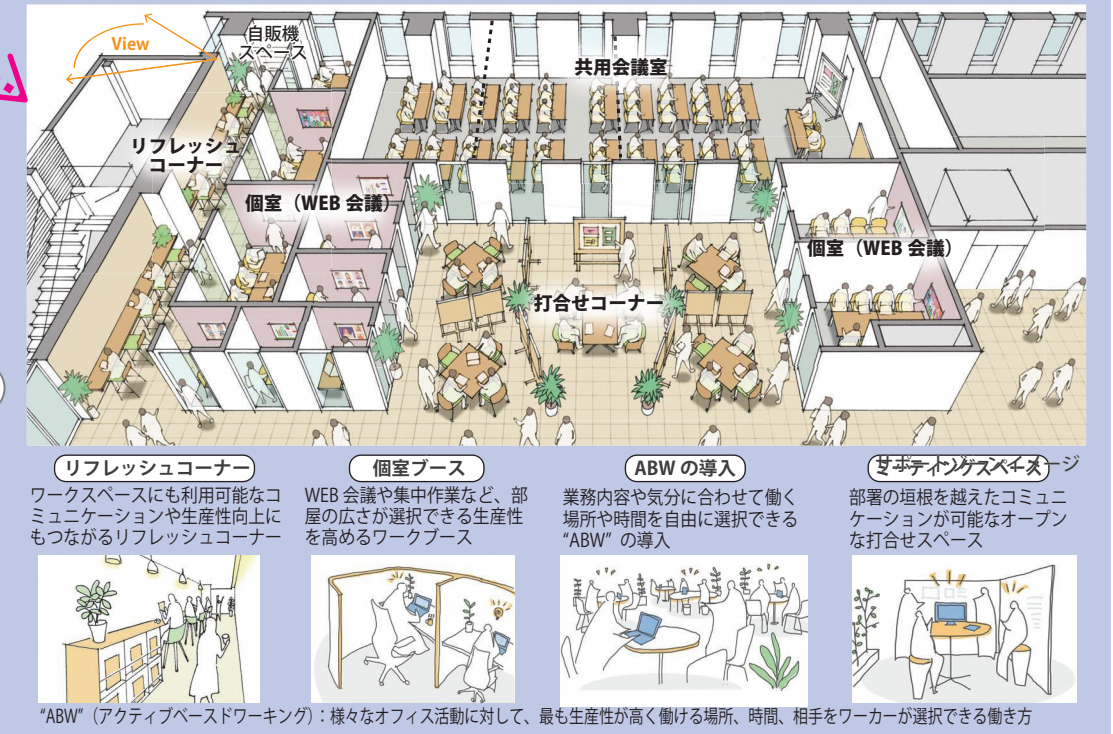


執務レイアウトの自由度を高める、南側の無柱大空間執務室

- ・最大面積を確保した基準階平面により、施設特性に応じた諸室配置が可能な、フレキシビリティが高い計画とします。
- ・執務室は大きなワンルームとし、南向きの無柱執務室を実現します。

会議室の多目的利用

分割利用 → 一体利用



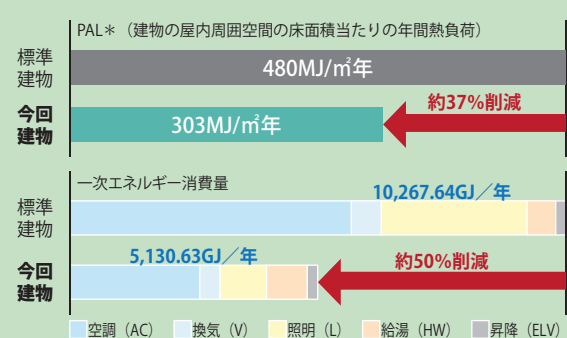
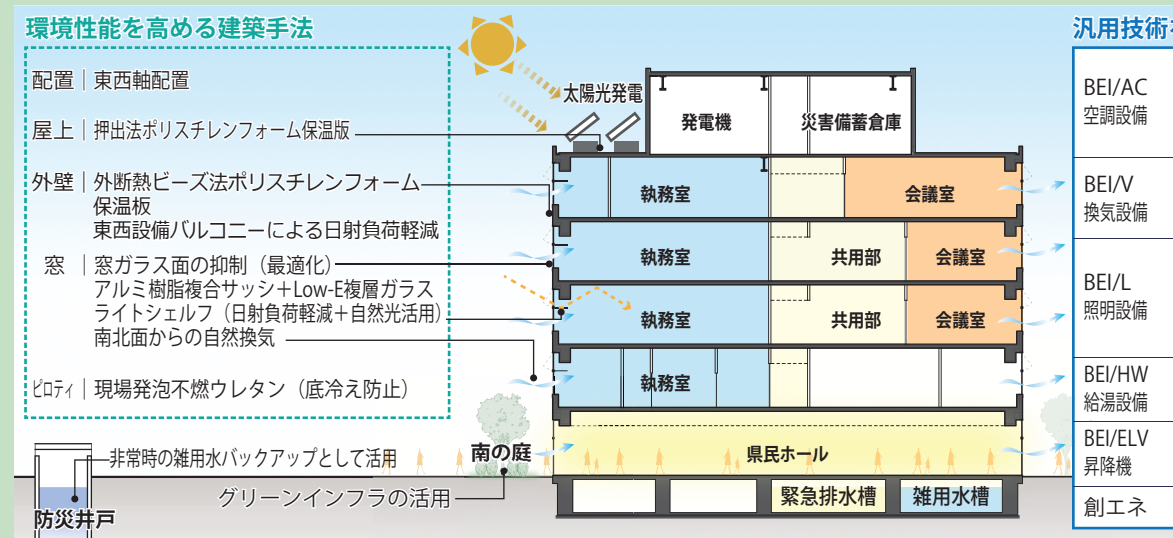
職員の生産性を高める北側のサポートゾーン

- ・会議室、休憩室、管理部門等は北側へ集約配置し、南側執務室のフレキシビリティを高めます。
- ・サポートゾーンには、共用会議室、個室、ミーティングブース、リフレッシュコーナーを配置し、職員のワークスペースを拡張するとともに、異なる部署間のコミュニケーションを誘発します。
- ・小中会議室は、間仕切り壁を移動間仕切りとし、広さを可変できる多用途に使用可能な会議室となります。

ABW (アクティブベースドワーキング): 様々なオフィス活動に対して、最も生産性が高く働ける場所、時間、相手をワーカーが選択できる働き方

3 環境性能と経済性を併せ持った庁舎

■外部負荷を抑える建築計画と汎用性の高い省エネ技術で先導的環境性能を実現

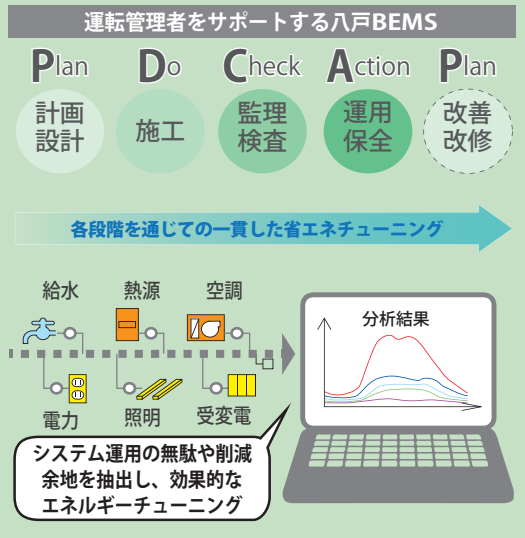


熱を逃がさない高い断熱性能でエネルギー消費量を削減

- ・年間や1日の中でも寒暖差が激しい八戸の気候・風土に対し、外壁の断熱性能を高め、快適な室内環境をつくります。
- ・高断熱化により基本的なエネルギー消費量を大幅に抑えます。
- ・一般的な省エネルギー技術を最適に組み合わせ、汎用性の高い省エネ手法を確立し、ZEB Ready (50%の省エネ) 庁舎を実現します。

将来的な創エネ増設を見据えた計画

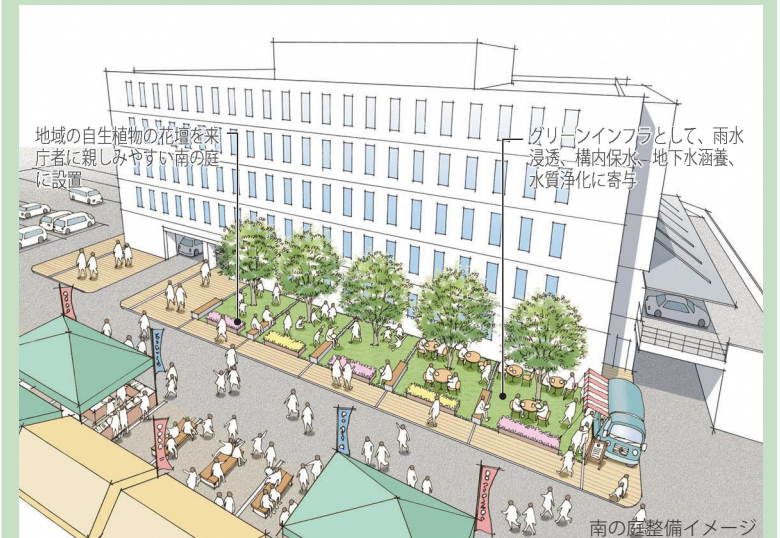
- ・将来の創エネルギー設備の増設を見据えて、必要となる、基礎や構造計算用荷重、将来用電気配管を見込んだ設計を行います。



建物運用時の省エネチューニング

- ・新庁舎供用開始後、空調や照明などエネルギー消費量、使い方の実態にあわせ、省エネチューニングを行い、想定使用量とのずれを解消し、更なる省エネを図ります。
- ・省エネチューニングに使用するデータは、建物に導入したBEMSにより定量データを収集し、省エネルギー性能が設計通りになるようチューニングを行います。

■カーボンニュートラルの実現に向けた環境啓発



グリーンインフラを活用した環境啓発

- ・南の庭に地域の植生を活用した庭園を設けます。自生植物の生態系を実現 (銘板表示) することで、来庁者に対する環境啓発を行います。

※本提案概要は提案時のものであり、今後変更になる可能性があります。